

近年、社会的にも“同窓会離れ”が進んでおります。この流れは、私たちの関西支部でも同様な兆候が見られ、交流会参加者数や役員人選などに顕著に現れると共に、参加者や役員の高齢化に繋がっています。そこで、今号のトピックス〔話題〕では、この同窓会の課題に焦点を当ててみました。

❖ 関西支部役員にご協力いただける方を募っています ❖

❖ 現役社会を卒業したら、「教養・教育」が大切だと、よく先人に教わりましたね。

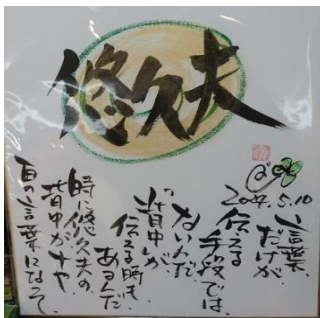
即ち、“今日用(教養)がある！…今日行く(教育)処がある！”か？！。

“そこで、皆さん！”老後の空いた時間に「新しい居場所づくり」として、母校や故郷への恩返しにもなる関西支部活動を加えて頂けませんか。～きっと良い仲間づくりにも役に立ちます！～

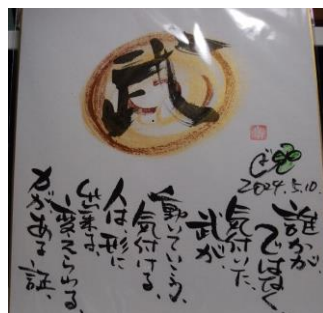
先ずは、KANSAI交流会に参加して、同窓会の良さを体感してみてください。

♥ 最近の役員会の楽しい話題を紹介します。役員活動の余興！の一例です

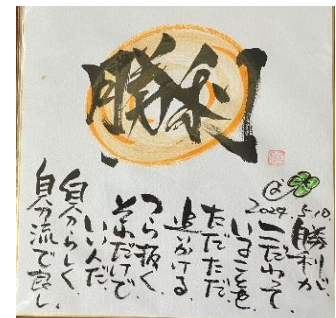
▷ 今、人気話題作家の「路上詩人大将」吉井将隆氏に、役員の名前や顔の表情から、性格や行動の道標等を書き下ろして貰いました。(令和6年5月) * 掲載は本人の了解を得ています。



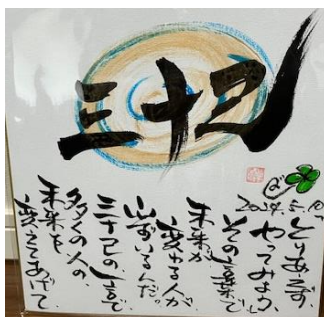
↑ K. K. D 経験と勘と度胸で生かされてきた私へのメッセージかなと思います
八木悠久夫(S35.建築)



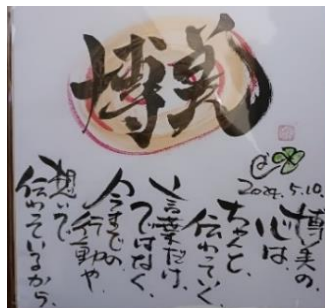
↑ 対面した瞬間に、色紙の言葉表現できるのは“凄い！”。対価を貰うが故に斟酌が働いた文言だと思うが、前を向かせる言葉に、気力を呼び戻された気がしました。“あるがままにを少し修正しようかな？”
定松 武(S41.電気)



↑ 美しき老後に向け、「役に立ちたい、楽しみたい、やってみよう」との“三たい主義”を行動基本に生きたこれまで、そして勇気と自信をもたらす、この得がたい言葉を胸に、これからも残された人生を、もうひと踏ん張り…と意を強くした勝利73才である。
坂下 勝利(S44.電気)



↑ “私も来年3月で古稀！”今迄の生きざま？や経験を、知り合いや後輩に“とりあえずやってみよう！”の言葉を積極的に声掛けることが、今迄の恩返しかな？と気付くことが出来たような気がします。
円城寺三十己(S48.電子)



← 私の名前を見て、直ぐに宇宙らしき絵と名前！を書いた。そして、私の目を見て、文章を書き始める。凄く優しい目をしていたなあ？と思う。また、71年間の生き様を覗かれたような気もしたが、この文言を見た役員仲間が“う～ん！？”と頷かれているのを見て、“少し安心したような？…”。
石本 博美(S47.機械)

♥ 結構、的を射た書き下ろしに殆どの人が“なっとく！！ほんまに俺はこんなんないい奴なんかなア？！…”と、心の中で呟いたと思いますね？？……。
～この書き下ろしを今後の役員活動の励みにしましょうよ～

❖ どがんじとっと！・・・元気にじとんね・・・？ ❖

♥先ずは、佐賀・白石町の同窓生からのお便りです。

昨年のKANSAI交流会に、遙々佐賀より同窓生1名が初参加をして頂きました。
その時の印象などを伺っていますので、今後の交流会の有り様に参考になればと思います。



↑ひ～でん祇園山車
リーダーの村上毅さん

昨年のKANSAI交流会に、S48年組同窓生という立場で初めて参加させて頂きました。佐賀からの唯一の参加ということで不安もありましたが、和やかな雰囲気の中に直ぐに打ち解け、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。特に支部長の挨拶には共感することも多く、感銘を受けました。

また、同級生や学年は違っても、同じ専攻科の人たちの関西での活躍振りに感銘を受けたり、地元佐賀県や母校の活躍など、佐賀で聞くのとは一寸違う鮮明な話題もあり、アツと云う間に時が流れて行き、久し振りに充実した時間を過ごすことが出来ました。招待してくれた同期の人に感謝します。

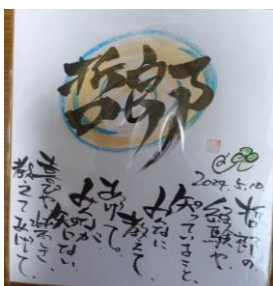
更に、交流会の進行や内容など学ぶべきことも多くあり、近々予定している佐賀での古稀同窓会にも活かして、より良い記念の同窓会になるよう努めたいと思います。
〔寄稿〕 村上 毅(S48.電子) 佐賀県白石町 在

❖ KANSAI交流会の場を、もっと仲間同志の場にして盛り上げてみませんか！ 「クラスメート、部活仲間、同郷仲間等との懇親の場にしてみよう！」

♥次は、「52年後の謝罪！」と云うお便りです。

昨年度、我々の母校は全国高校ラグビー大会で23年振りの第3位を勝ち取り、又々、全国に名を馳せました。また、振り返れば52年前に、創部以来初めてのベスト8の地位を獲得しています。この時のSH(スクラムハーフ)が、この試合での出来事を振り返って、同僚に謝罪をした文が送られてきました。

↓ 昨年の交流会での最若手席に2人は同席



↑ 園田哲郎さん
と書き下ろし色紙

昭和47年1月5日花園ラグビー場メイングラウンドでのベスト4を目指した佐工VS福校の戦い。平均体重10キロのハンディと芝生のない荒れたグラウンドにみぞれ交じりの冷たい雨の中、必死に耐える小柄のFW(フォワード)。スクラムを組んだ瞬間に1メートル下げられ、ボールを入れるのが嫌になり、ボールを滑らせスクラムのやり直し、何度組んでも同じ内容で、思わず1番のプロップ川崎君の背中を右肘で2、3度肘鉄。そして“踏ん張れ”と檄を飛ばす中、ボールを入れるFWの膝は90度に曲がり地面すれすれで諤々と震え必死に耐えている。ボールを入れるが敵に渡る。12対0での敗戦後にも檄を飛ばし肘鉄の行為を謝れず、52年もの過ぎし日、大久保先生の90才卒寿のお祝いで、卒業以来の再会で恐る恐る川崎君に記憶を訊ねると、しっかりと記憶にあり、当時の行為を謝ることが出来た。思えば各自のポジションで必死に耐えて責任を全うしていた素晴らしいメンバーに恵まれたご褒美のベスト8。自信と誇りの言葉に出来ない大切な財産を得た素晴らしい若き青春の1ページのメンバーに感謝！感謝！です。

〔寄稿〕 園田 哲郎(旧姓:原崎/S47.電子) 滋賀県大津市 在

❖ 関西には、まだまだたくさんのラグビー部出身者や関係者が居られることでしょうか？ 「全国高校ラグビー大会応援やKANSAI交流会へ、是非参加をお願いします。」